



目次

青森公立大学・西目屋村・佐井村連携協定締結式…………… 1～2  
 地域研究センター支援活動報告…………… 2  
 創業チャレンジクラブ「サポートセミナー」講演、夏期公開講座結果報告…………… 3  
 公開講座『新時代の起業力を養う』、中小企業支援情報コーナー、経営相談等のお知らせ …… 4

## 青森公立大学・西目屋村・佐井村連携協定締結式

10月3日（水）本学国際交流ハウスにおいて、青森公立大学と西目屋村、西目屋村と佐井村の連携協定締結式が執り行われました。

これまでも本学は2008年度に七戸町と佐井村との連携協定を結び、七戸町では“そば博”や観光ルートの開発調査、佐井村とは“高齢者見守りシステム（地域ハイブリッドコンテンツ配信手法の研究）”等で協力していました。

西目屋村とはこれまでも2010年の「西目屋村新総合計画」の策定をはじめ、本学学生による調査と交流が行われました。この度、新たに西目屋村と地域連携協定が結ばれ、本学と西目屋村の間で学術協力等の推進が今後期待されます。

また、同時に西目屋村と佐井村の連携協定も結ばれ、本学および山と海の地域がそれぞれ密接に連携し合う協力体制が整います。今後の社会・経済環境の変化に適切に対応し、地域経済の活性化、地域住民の生活環境の改善および将来的に必要とされる人材育成を目的とした交流により、地域の活性化につながることも期待されます。大学を中心に、自治体とこのような三角協定を結ぶ例は珍しいことです。

協定締結後の記者会見で、佐井村の太田健一村長は「わが佐井村と西目屋村は、県内でも1、2を争うほど小さな村だが、人口減少、少子高齢化等、共通の課題がある。農業や漁業、有形・無形の文化遺産、災害時における支援等、共に汗を流し、共に努力し、村の発展に尽くして様々な分野での交流を推進し、お互い切磋琢磨して小さくても強い村づくりに励んでいきたい」と語りました。また、西目屋村の関和典村長は「西目屋村は山の村、佐井村は海の村なので、地域連携協定にあたり、具体的にはまず子供同士の交流を進めたい。山の子供と海の子供の交流を通じて、自分たちの住む地域を理解することにつなげたい。それには青森公立大学の学生との交流も必要である。また、災害時等、互いに助け合える体制を整えたい。産業振興では、海と山で採れるものが異なる為、それぞれの産品を持ち寄って価値を高め、都会で売れる産品を提供し、共同でイベントを行う等の協力を形にしていきたい。その為にも、公立大学をはじめ、議会等とも積極的に交流していきたい」と、連携にあたり抱負を語りました。

本学の香取学長は、「教育の立場としては、県内の人でも佐井村に年に何回行ったことがありますかと聞



香取学長挨拶（連携協定締結式にて）



青森公立大学と西目屋村、西目屋村と佐井村の間で連携協定が結ばれた（連携協定締結式にて）

くと、ほとんどの人は行ったことがないとお答えになるでしょう。そういうところに行ったことがないと『冬場はどうなるのだろう?』といった想像が働きにくい。学生には連携を通じて実際に行ってみる“現場主義”を体験してもらいたい。その上で批判なり、アイデアなりを出すべきである。そういうことを学生には理解してもらいたい。その経験によって、学生が将来壁にぶつかっても何とかしようという気概が持てるような教育になる。その上で現実の課題解決に少しでもお役に立てるようにするのが、地域の核となる大学の役割と考えます」と思いを述べました。



連携協定書の締結が完了し、手を合わせる(右から順に)青公大理事長、西目屋村村長、青公大学長、佐井村村長(連携協定締結式にて)

## 地域研究センター支援活動報告

9月に行った地域研究センターの支援活動2件をご報告します。

### ① 日本実用英語学会第37回年次大会

9月15日(土)および16日(日)の2日間に渡り、「日本実用英語学会第37回年次大会」が青森公立大学で開催されました。当年次大会は、香取真理准教授が実行委員会委員長として、地域研究センターと一緒に運営の支援を行いました。日本実用英語学会は1975年8月に設立され、役に立つ英語を理論と実践の面から研究し、会員相互で研究の促進、知識と情報の交換、学術振興の推進を目的としています。今回は約40人の学会員が日本各地から参加し、13の様々な研究発表が行われ、大会は大盛況で幕を閉じました。また、昼食のお弁当に厳選した青森特産品を盛り込む等、青森公立大学の落ち着いた施設環境ときめ細やかなおもてなしについて、学会員の皆様から好評を頂きました。

### ② 第2回つがる西北五活性化協議会

9月28日(金)に青森県西北地域県民局主催の「つがる西北五活性化協議会」が、津軽鉄道津軽中里駅の駅ナカにぎわい空間で行われ、香取学長の代理として栗村主任研究員が参加しました。当日参加者は津軽五所川原駅から津軽鉄道に乘車し、津軽鉄道の活性化に対する取り組みについてアテンダントガイドから説明を受けた後、津軽中里駅の交流スペースで会議が行われました。

会議では西北地域の課題と取り組みについてグループディスカッションが行われ、栗村主任研究員は「特徴のある農業を活用した取り組みについて」をテーマにグループの議長役を務めました。ディスカッションでは、農業に関する近時の課題について様々な意見が飛び交いました。地域製品の付加価値を向上すべきという点で、津軽平野を体験する旅行として知名度を上げた「地吹雪ツアー」を例に、生活や風土を理解できる“物語性”を高めることで、青森の“特徴”を発信していく重要性について、理解を深めました。



篠田学会会長による開会の辞(日本実用英語学会第37回年次大会にて)



意見総括のスピーチ(つがる西北五活性化協議会にて)

## 創業チャレンジクラブ「サポートセミナー」講演

9月8日（土）に（公財）21あおもり産業総合支援センターにおいて、栗村主任研究員が「青森市内企業の経営力～青森市中小企業経営支援調査の結果より～」をテーマに講演を行いました。

このセミナーでは21あおもり産業総合支援センターの支援の下に新規創業を目指す「創業チャレンジクラブ」の方々を対象に、昨年度に地域研究センターが青森市から受託して実施した『経営力強化のための支援施策基礎調査（青森市中小企業経営支援調査事業）』の調査結果に基づき、経営に重要なポイントを紹介するとともに、青森市内と首都圏との経営力の違い等を説明しました。

今回の講演では、創業者が目指すべき方向として経営力がなぜ重要なのか、どのように強化していくのかについて、今後創業をしてから事業を継続するための一つの客観的な指標として役立てて頂くことを目標にしました。また、経営力の各種ポイントは業種や規模によっても重要性が異なってくるものです。しかし、調査で利用した調査項目を改めて「モノ・金・人」の視点で分析し、時間や人材の育成といった軸を組み合わせることによって、調査項目だけでは見えなかった経営力の重要なポイントを柔軟に理解・応用できるようなモデルの説明が行われました。

セミナーではこの他、先輩創業者の創業への経緯や意見交換などが行われ、それぞれの創業に対する思いを新たにしていました。



講演を行う栗村主任研究員（サポートセミナーにて）

## 夏期公開講座結果報告

青森公立大学公開講座『経営学ってなんだろう？』を5月から7月にかけて全5回、ねぶたの家ワ・ラッセにて実施しました。この講座は主に高校生および社会人を対象とし、「経営学」を今まで学んだことのない方が、マネジメントの色々な側面とその大切さが理解できることをテーマとしています。

延べ177名の方々が受講し、10代の学生の方々が最も多く約5割を占め、続いて20代・40代・60代の会社員及び自営業の方々を中心に多くの方に参加して頂きました。各講座につき30名程度を定員としていましたが、申し込みが殺到し定員を上回る回も出た他、参加者全員の意見交換が積極的に行えるディスカッション形式を取り入れた回も好評を頂き、全体的に大盛況となりました。

### （受講者のご意見・ご感想）

- ・ただの企業運営の学問でないとわかった。  
(10代：女性)
- ・実際に経営を議論することによって個人だけの意見でなく、いろんな人の意見を聞くことができてよかった。  
(10代：男性)
- ・とても興味深い内容で引き込まれました。次回も楽しみにしています。  
(20代：男性)
- ・経営学のイメージが変わりました。“お金”ではなく、人の生き方に関係する幅の広い物なのだと思います。いろいろディスカッションしてみたくまりました。  
(40代：女性)
- ・仮説、一般論よりも具体的なマネジメントケース（一般企業）がほしかった。  
(40代：男性)
- ・公式組織他、専門的な用語がでてきたが説明を聞いて理解できる部分が多かった。  
(50代：男性)
- ・これからのマネジメントにとって、道徳的リーダーシップの必要性がよく理解できた。  
(50代：男性)
- ・自分の職場に当てはめて考えながら受講しました。弱い部分、強い部分、社内の組織を見直すチャンスを得られました。  
(60代：女性)



公開講座第3回目はディスカッション形式を取り入れ、参加者全員が発言し、意見の交流が行われた（ワ・ラッセにて）

## 公開講座 『新時代の起業力を養う』

昨年度よりも講座数を大幅に増やし好評を頂いている本学公開講座も、『新時代の起業力を養う－社会の起業家・企業内の起業家育成を目指して－』が今年度最後の講座となります。本公開講座では新しい社会が求めているあらゆる分野、あらゆる組織の人々の「起業力」の育成と共に起業家の育成を目指して、学術研究者と専門職業人のそれぞれの立場で講演を行います。一般の方を対象とし、起業家としてだけでなく教養としても意義のある内容となっています。定員数にまだ余裕がありますので、奮ってご参加下さい。

開講日	講座テーマ
11月13日	「起業家に必要な人事・人的資源管理を学ぶ」
11月20日	「起業家に必要な会計・税務と財務分析を学ぶ」
11月27日	「起業家に必要な会社の設立の諸手続きを学ぶ」
12月4日	「起業家に必要な会社の海外展開を学ぶ①」
12月11日	「起業家に必要な会社の海外展開を学ぶ②」

いずれの回も火曜日開催

時間：18時30分～20時30分

場所：アウガ5階 青森市男女共同参画プラザ研修室

定員：50名程度

受講料：無料

※開催日前日（必着）までに受講を希望する演題名、開催日と住所、氏名、性別、年齢、連絡先の電話番号を記入し、FAXまたはE-mailでお申し込み下さい。

FAX送信先：017-764-1564 青森公立大学地域研究センター

E-mailアドレス：kouza@bb.nebuta.ac.jp

【詳細はこちらでもご覧頂けます】 URL [http://www.nebuta.ac.jp/chiken/koukai\\_kouza/12/sinzidai.html](http://www.nebuta.ac.jp/chiken/koukai_kouza/12/sinzidai.html)

## 中小企業支援情報コーナー設置のご案内



青森公立大学 まちなかラボの入口脇に、「中小企業支援情報コーナー」を設置しました。国や県が行っている中小企業支援策の情報の閲覧、およびチラシ等の配布を行っております。「まちなかラボ 経営相談」と併せて、是非ご利用下さい。

※卓上の閲覧用資料は、アウガ休館日を除く、月～土13時～21時の間での閲覧となります。

### 【まちなかラボ 経営相談の受付について】

まちなかラボでは、個人・企業の経営上の課題についてご相談を受け付けております。

ご相談には、本学教員をはじめ、中小企業診断士である研究員などが対応し、経営課題の分析や課題解決のためのアドバイスをするとともに、より専門性の高い各種支援機関への橋渡し、支援制度情報の提供などを致します。

ご相談の予約・申し込みは、まちなかラボへお気軽にどうぞ。

## 多目的サテライト 青森公立大学まちなかラボ



まちなかラボは、本学の地域研究センター研究員が交代勤務しております。本学の教職員、学生とともに、地域社会に関する研究、各種プロジェクトを行う際のディスカッションの場、地域振興、産学官連携に関する相談窓口としてご利用下さい。

〒030-0801 青森市新町1-3-7 青森駅前再開発ビル(アウガ)6階

電話：017-718-7025 Fax：017-776-2082

E-mail：lab@bb.nebuta.ac.jp

[http://www.nebuta.ac.jp/machinaka\\_lab/index.html](http://www.nebuta.ac.jp/machinaka_lab/index.html)

開設時間 13：00～21：00

(毎週日曜日、年末年始、アウガ全館休館日、5～8階公共施設休館日は、休業いたします。)